未決

改正局急務條議

緒言

方今地租改正ノ業ニ於テ急ニ議決セサル可ラスシテ未タ其議決ヲ經サル者四條アリ一ニ曰本局ノ體裁ヲ更革スルヿ二ニ曰未決ノ各款ヲ議定スルヿ三ニ曰改正ノ順序ヲ立ルヿ四ニ曰市街郡村ノ稅率ヲ一ニスルヿ各條左ニ論列シテ以テ高裁ヲ乞フ伏メ願クハ一刀兩斷是非得失ノ在ル所ヲ裁定シ各人ノ方向

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1037

ヲシテ歸着スル所アラシメンコヲ併テ
雜稅改革ノ議一篇ヲ上呈スル亦以テ
參考ノ一端ニ供スヘシ議者謹テ識ス

大藏省

第一議

本局ノ體裁ヲ更革スルコト

理財ハ經國ノ要務ニシテ收稅ハ財
政ノ根基也故ニ理財收稅ノ術一タヒ
其用ヲ誤ル寸ハ上政令ノ信賴ヲ失ヒ民力
ヲ沮格シ下民心ノ離叛ヲ釀サル者殆ト希ナリ是ニ
ノ凋衰ヲ釀サル者殆ト希ナリ是ニ
由テ之ヲ觀レハ方今地租改正ノ如キハ
我政府ノ一大事業ニシテ大臣閣下
ノ最注意苦慮セサル可ラサル者ナリ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1037

明治六年ノ秋地租改正法ヲ頒布セラレシ以来本寮其事ニ擔当シ別ニ改正ノ一局ヲ置キ專ラ之ヲ整理セシムト云ヒ其體タルヤ小ニ其権タルヤ微ニシテ未タ以テ此大事業ニ當ルニ足ラス之ニ加フルニ内務大藏両省ノ分立スルニ及ヒ権限或ハ両省ニ渉ルヲ以テ合議照會ノ間多少拘牽滞滞ノ弊ヲ醸成シ各地方官ヲシテ屢其機會錯置ヲ誤ラシムルニ至ル嗚呼此ノ如クニシテ歳月ヲ度ラハ特ニ業ノ宜シキヲ得サルノミナラス官民其労費ニ倦怠シ弊害物議其間ニ百出シ廟議或ハ之カ為メニ變換シ億兆モ亦之カ為メニ疲弊困頓スルニ至テ已マン伏ノ願クハ此業ノ至大至難ニシテ他ノ尋常事務ト同一視ス可ラサルヲ察シ内務大藏両省ノ間別ニ地租改正事務ノ一局ヲ置キ局長一名ヲ撰テ此業ニ專任セシメ事両省ニ関

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1037

渉スル者ト云ヒ地租改正法ニ掲載ス
ル所ノ各款ハ渾テ此局ノ専管掌
理スル者トナレ法規ヲ変更スルノ外
ハ一切局長ニ委任レ改正ノ業随テ
終レハ随テ主任ノ各省ニ送致レ蹕
属風發數年間ヲ期レテ以テ其成
蹟ヲ奏セレメン此ノ如クニレテ後始メ
テ能ク億兆ノ倒懸解クヘキ也地租ノ
偏暗均一ナラレムヘキ也上文ニ所謂
民心ヲ失セ民力ヲ凋衰スルノ禍免

ルヘキ也是ヲ地租改正第一ノ急務トス

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1037

第二議

未決ノ各款ヲ議定スル了

地租改正法中ノ細目更ニ議決ヲ要スヘキモノ五款アリ左ニ條列シテ以テ高裁ヲ乞フ

第一款　地價ニ二種アル了

地價ニ二種アリ土地ノ実利ヲ確定シ規則上ノ利子ヲ以テ算出スル者之ヲ実價ト云フ人民ノ好悪求需ノ緩急ニ因テ相低昂スル者之ヲ賣買價ト

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1037

云フ地租ハ必ス実價ニ賦スヘク賣買價ニ課スヘカラス何トナレハ其賣買價ナル者ハ目今ニ在テ決シテ知ル能ワサルノミナラス之ニ地税ヲ賦スルカ如キハ大ニ公平畫一ノ旨ニ反スルモノアルヲ以テ也

第二款　地價檢査ニ用ユル米價ノ丁

地租改正ノ後五年間ハ當初ニ定ムル所ノ地租ヲ以テ定額トスル上ハ地價檢

五年間上中下三等平均相場ヲ用ユルヿニ決ス

既決
田モ亦之ニ准ス

査ニ用ユル米價ハ各地既往五年間貢納石代相場ヲ平均シテ用ユヘシ

第三款　畑收獲ノ丁

畑ハ二作三作スル者アリト云ヒ地租改正ニ用ユル所ノモノハ本毛一作ヲ以テ準據トシ精確ニ調査スヘシ何トナレハ畑ハ労費最多キカ為メニ其実收スル所ノ者ヲ得ント欲スルモ其事タル頗ル難ク徒ニ労費等ノ紛議ノミヲ来スヘケレハ也

第四款　桑茶畑ノ丁

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1037

既決

桑茶畑ハ其利益最多ク其培養成木ノ歳月モ亦最久レトス其地價ヲ算スルノ法各種ノ議アリト云ヒ暫ク物産蕃殖ヲ勧奨スルノ趣意ヲ以テ近傍類地米麥ヲ植ル者ト同一視レ別ニ享税ヲ賦セサルヲ法トスヘシレ

第五款　山林地價ノ事

山林ハ年々ノ收利ヲ知リ難キモノ多ク地價ヲ算出スル最難レ若レ又直ニ賣買上ノ代價ニ因テ賦税スル寸ハ百分ノ三ノ税率或ハ過重ニ渉ルモノアリ故ニ賣買代價中木材ノ代價ヲ除去レ眞ノ地價ノミヲ得テ之ニ賦税スヘシ其賣買價ノ照應ナキモノハ鑒定人ヲ設ケテ之ヲ定メシムヘシレ

右各款議決ヲ経ハ之ヲ正院ニ上申レ之ヲ別報ニ上載レ以テ実際着手ノ根據ト為サン是ヲ地租改正第二ノ急務トス

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1037

第三議

改正ノ順序ヲ立ル事

本局ノ體裁一定シ未決ノ各款議決セハ各縣地租改正着手ノ順序ヲ立テ以テ成蹟ノ目的ヲ定メサル可ラス夫寝法ノ始ニ當テ速ニ成ヲ要セサル固ヨリ論ナシト雖モ是特ニ調理上ノ精密ヲ要スルノミ其既ニ廟議一決スルノ後之ヲ実際ニ施行スルニ至テハ同一政府ヲ以テ同一人民ニ對シ同一地租ヲ改正スル豈因

循遅疑今年二縣ヲ改メ明年三縣ヲ改メ數年所ヲ經ルノ後始メテ一總變換スルノ理アランヤ特ニ其理ノ此ノ如キノミナラス実際ニ於テ大ニ窒碍スル所ナキ能ハス譬ヘハ甲乙二縣アリ犬牙相接スルノ地ニシテ同シク歳ノ不登ニ逢フ甲ハ地租改正ノ後ナルカ為メニ減税スルヿナク乙ハ未タ改正ヲ經サルカ為メニ減税セサルヲ得ス或ハ彼米價ノ如キ既往五年間ヲ平均スト云ヒ甲乙二縣ヲ改正着手ノ緩急アルカ為メニ米價甚相低昂スルアラハ地價モ亦隨テ多少ノ低昂ヲ生スヘク或ハ因循年所ヲ經ルノ間時論一變法未タ全國ニ普及セスシテ別ニ一種ノ横議ヲ生スル等障害百出支フヘカラサルニ至ルヘシ伏メ願クハ區々ノ小利害ニ関セス非常ノ英断ヲ以テ變法ノ全效ヲ達観シ概略皇國全島ヲ分テ三大部トナシ中部ヲ初年（則明治八年）東北

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1037

部ヲ次年西南部ヲ第三年ニ改正スヘキ大段落大順序ヲ立之ヲ全國ニ公告シ尚本局ヨリモ多少ノ官吏ヲ派出シ監視督責能ク地方ト本局トノ氣脉ヲ流通シ全國ノ改正一手ニ出ルカ如ク又支離錯雜ノ弊ナカラシメン是ヲ地租改正第三ノ急務トス

大藏省

第四議

市街郡村ノ税率ヲ一ニスルヿ

尚一條ノ最緊至要ニシテ未タ議決ニ至ラサルモノアリ明治五年以降各無税地ニ施行スル所ノ地價百分一税法改正ノ一是也抑此法タル地券税法着手ノ試驗ニ供スルモノニシテ其税率ノ如キ固ヨリ確実ノ目的アリテ箕定スルニ非ルヲ以テ地租改正法頒布ノ後ニ在テハ之ヲ旧税法ノ一部分ニ屬シ

他ノ郡村ト同シク改正シテ同一百分
三ノ税率ニ合セシメサル可ラサルハ固ヨリ
論ナシ然リ而ノ論者或ハ區々ノ小利
害ヲ執テ其改正ヲ難ンスル者アリト云
ヒモシ改府ニ向テ公平畫一ノ旨ニ及
シテ分一分三ノ両率ヲ設ケ府民ニ薄
税ヲ賦シ郡民ニ厚税ヲ賦スルハ如何ト
問フモノアラハ區々タル小利害豈能ク
之ヲ粹破シ得ンヤ之ニ加フルニ此税法タ
ル單ニ之ヲ市街地ニノミ施行スルニ非
ス旧来無税ノ地ハ明治五六年間ヨリ
一切此法ヲ施行スルヲ以テ同一ノ市街
ニシテ旧税アル地ハ旧税ヲ存シ無税ノ地
ハ此法ヲ施行シ或ハ同一郡村ニシテ其
間ニ點在スル所ノ無税邸地ハ此法ヲ
施行シ他ハ旧法ヲ存スルモノアリ渾テ
此法ノ行ハル、所市街郡村ノ別ナク
全國中ニ點々散在スル恰モ黒白ノ
碁石ヲ盤上ニ飛スカ如キ者ノ如シモシ夫區
々タル小利害ヲ執テ此法ヲ改正スルヲ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1037

難シトセハ公平畫一ノ上又何ノ二カ在ル
各縣中疑團ヲ生シテ稟問スル者少
カラストス云爾片言以テ之ニ答フルニ辞ナク
曩日高覧供シテ以テ議決ヲ促セリ
早ク改正ノ一令ヲ下シ各地ノ臣民ヲ
シテ疑團ヲ其間ニ容レシムルナカラン
コヲ是ヲ地租改正第四ノ急務トス

大藏省

附議

雜稅改革ノ議

方今各縣旧貫ニ因テ收入スル所ノ
雜稅ナル者一歳ノ全額僅ニ五六十万
圓（凡歳入一百分ノ一）ニ過キスシテ其稅
目タル數十百種其之ヲ收入スルノ労費モ
亦鮮少ナラス之ニ加フルニ旧藩中適
宜ニ施設スルモノナレハ一縣中ト云爾
甲地ハ之ヲ賦シ乙地ハ之ヲ課セス或ハ
輕或ハ重偏暗一ナラサル者比々トシテ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1037

之ヲ見ル何況ヤ全國内ニ在テ彼此
大差ノ甚シキ甲縣ハ行商ノ擔捧日
雇ノ工人ニモ苛税ヲ賦シ乙縣ハ巨萬
ノ豪商壯大ノ工場ト云氏一錢ノ税
ヲ課セサルモノアルニ至ル嗚呼苟シク
モ心性知識アリ疾痛疴痒ヲ知ル
者誰レカ此不公不均畸重畸軽ノ
旧貫ヲ株守シ心ニ慊シトスル者アラ
ンヤ伏メ願クハ明治八年ヨリ更ニ製
茶煙草布帛ノ三品ニ印紙ヲ貼シテ

收税スルノ一法ヲ創立シ彼雜税ノ如
キハ一切之ヲ免除シ此蚩々ノ民ヲシテ
始メテ蘓息スル所アラシメン然リ而メ
三品ノ税額今ヨリ概計ス可ラスト云
氏其方法宜シキヲ得ハ一歳ノ收入スル
所大凡一百万圓ニ下ラサルヘシ此ヲ以テ
彼ニ換ヘ旧藩渣滓ノ齷齪ヲ除去ス
ル恰モ荊棘ヲ焚テ松柏ヲ露スカ如ク
内國ノ税法始メテ一總變換ス亦善
カラスヤ而メ後民ニ遺利アリ尚幾分

ノ税ヲ賦スヘキ者ハ暫ク賦金ノ類トナシ之ヲ縣官ニ委シ学校道路等ノ入費ニ充テ或ハ民費ノ若干ヲ補ハシムルモ亦不可ナカルヘシ若シ夫三品賦税方法ヲ議スルカ如キハ別ニ人アリ議者又啻々ヲ費サス

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1037